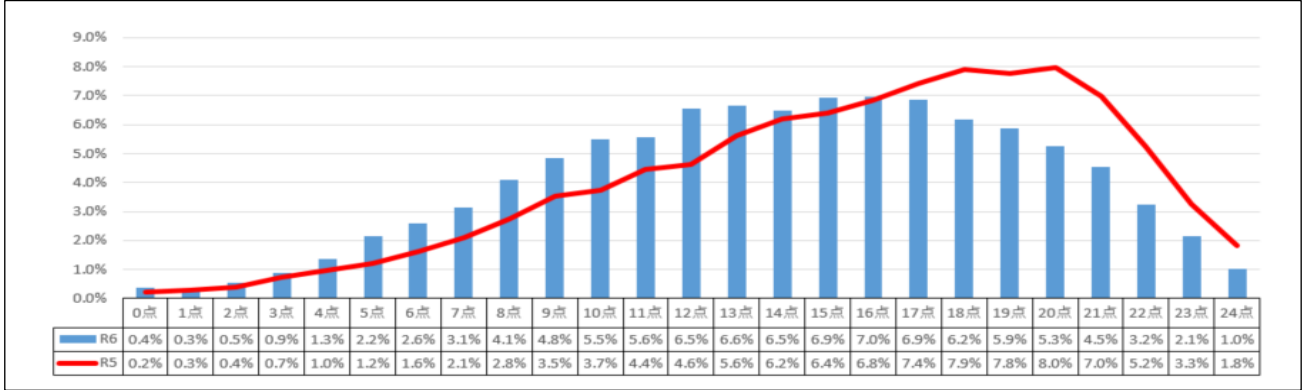


授業改善の手引 小学校第5学年国語

1 調査結果

(1) 分布状況



正答数の最頻値は16問、平均正答数は14.1問です。R5年度と比較して、正答数が18問以上の層が減少した分布となっており、思考・判断・表現の正答率が全体的に減少していることが要因と考えられます。また、正答数が5問以下の児童は全体の5.6%であり、R5年度から2.6ポイント増加しています。この層に属する児童へのきめ細かな指導が引き続き必要です。

(2) 領域等の正答率

観 点 ・ 領 域 等	正答率 ()はR5
知識・技能 (9問)	67.2% (70.5%)
思考・判断・表現 (話すこと・聞くこと) (4問)	57.0% (69.2%)
思考・判断・表現 (書くこと) (4問)	55.8% (63.1%)
思考・判断・表現 (読むこと) (7問)	49.8% (59.1%)

(3) 結果概要

- ア [知識及び技能] については、9問出題され、正答率は67.2%でした。
 - 「文脈に沿って、漢字や語句を適切に使う」は昨年度に引き続き良好でした。
 - 「漢字の由来、特質について理解する」について課題が見られます。
- イ [思考力、判断力、表現力等] (話すこと・聞くこと) については、4問出題され、正答率は57.0%でした。
 - 「話し合いの適切な進め方を捉える」は比較的良好でした。
 - 「意図に応じて、話の内容を捉え、適切な質問をする」について課題が見られます。
- ウ [思考力、判断力、表現力等] (書くこと) については、4問出題され、正答率は55.8%でした。
 - 「文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文章を整える」は、比較的良好でした。
 - 「自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして文章を書く」については、引き続き指導の工夫が必要な状況です。
- エ [思考力、判断力、表現力等] (読むこと) については、7問出題され、正答率は49.8%でした。
 - 「場面の展開を捉えて読む」は比較的良好でした。
 - 「目的に応じて、必要な情報を見付けて読む」(短答式問題) について課題が見られます。

(4) 経年比較問題の状況 (○改善、◇改善傾向、●課題が継続、△▼はR5 県学調との比較により増減を表す)

通番号	正答率	比較	調査のねらい
◇13(読)	73.1%	△22.8	場面の展開を捉えて読む。
●14(知・技)	39.6%	± 0	修飾と被修飾との関係を理解する。
●20(読)	52.9%	▼13.1	段落相互の関係に着目して読む。
●24(書)	47.6%	▼9.7	自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして文章を書く。

- ◇ 通番号13は、大幅に上昇しました。指導改善の成果が表れていることが考えられます。
- 通番号14は、直近3年間、同程度の正答率で推移しており、課題が継続している状況です。
- 通番号20、24は正答率が下降し、課題が見られている状況です。

A 修飾と被修飾の関係を理解する。

ア 問題の概要と結果

③ 物語を読んで考えたことについて、感想を話し合う。

③ (3) 正答率 **39.6%** （問題番号 14）

<ねらい> 修飾と被修飾との関係を理解する。

登場人物の心情を理解するうえで有効な、様子を表す言葉（修飾語）が、文中のどの言葉を詳しくしているか見付けて選択する。

学習指導要領における内容

〔第3学年及び第4学年〕

知識及び技能（1）カ

主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。

イ 問題の分析と考察

ここ数年、修飾語の問題の正答率は30%台です。子どもたちがこの問題につまずく要因は何でしょうか。小学校6年間で、修飾語を「くわしくする言葉」として取り立てて指導する時間は、教科書会社によって多少の違いはありますが、6年間で2、3時間です。もし、この2、3時間しか指導しないとすれば、子どもたちに、生きて働く知識・技能として身に付くことは難しいのではないのでしょうか。

この問題を、今回、あえて物語から出題したねらいもそこにあります。物語の登場人物の気持ちを具体的に想像するとき、低学年では、文の述語に着目できるようにし、中学年では、述語を詳しくしている修飾語に着目できるようにします。先生方は、日々の授業でそのようにされているのですが、子どもたちは無自覚的に学んでいることが多いため、そこを結び付ける必要があると考えられます。

つまり、子どもが考えを述べた際、その根拠を問うことで、子どもは修飾語に着目します。しかし、自分が着目した語句が修飾語であるという自覚がありませんので、「なぜ、分かったか」を振り返る必要があります。子どもが、物語を深く読む、または、豊かに読む際に、「様子を表す言葉」や「くわしくする言葉」が大事なのだ、と実感すれば、子どもの中に必要な知識・技能と位置付けられ、物語を読むたびに、繰り返し活用され、定着すると考えます。

B 目的に応じて、必要な情報を見付けて読む。

ア 問題の概要と結果

④ 説明文を読んで考えたことについて、文章に書く。（『NHKふしぎがいっぱい5年生』の要約）

④ (3) ① 正答率 **29.2%** （問題番号 21）

<ねらい> 目的に応じて、必要な情報を見付けて読む。

説明文を読んで考えたことを書いた文章において、必要な情報を本文から見付けて、条件に合わせて記述する。

学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕

思考力、判断力、表現力等

C 読むこと（1）ウ

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。

イ 問題の分析と考察

この問題は、山本さんが本文を読んで考えたことについてまとめた文章の、空欄に入る言葉を記述する問題です。子育てをする魚の目的と育て方との因果関係について、必要な情報を見つけた上で、問題の条件に合わせて記述する力が求められます。

誤答を分析すると、全く関係のない内容を記述したり、「～ないように…」という条件を満たしていなかったりしているものが多く見られました。また1つ前の問題番号20（段落相互の関係に着目して読む）の正答率は50%程度でした。このことから、誤答の要因は、文章の内容と必要な情報との関係が理解できていないことに加えて、複数の事例が列挙されている文章全体の構成を捉えられていないことにあると考えられます。文章全体の構成を捉えた上で、必要な情報を見付けられる力の育成に課題があると考えられます。

大前提：「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」は、相互に関連し合いながら育成される必要がある。

（『小学校学習指導要領解説国語編』P.8）

つまり

「読むこと」の学習を通して、「修飾と被修飾の関係を理解する」力も根気強く育てていく！

そのために

ポイント① 課題解決的な単元を構想しましょう！

単元で育てる資質・能力を明確にしたうえで、



子どもの初発の感想や素朴な疑問をもとに、

子どもの中に「なぜだろう？」「単元を通して解決したい！」という課題意識を醸成します。

メリット① 主体的に活用しながら知識を習得できる

ポイント② 考えの根拠を叙述に求めましょう！



C:ごんは「引き合わない」と言っていますが、自分から正体を明かそうとはしていません。

T:どこからそう思いましたか？

C:うら口から、こっそり入った、と書いてあるからです。

メリット② より実感を伴った理解となる

ポイント③ どうして解決できたか明確にしましょう！

C:登場人物の気持ちは、会話や行動だけでなく、様子からも分かることを学びました。

T:様子を表す言葉は、3年生で習った「くわしくする言葉」ですね。



C:何をくわしくしているかが大事なのか！

メリット③ 学びが自覚され、生きて働く知識となる

第4学年「C 読むこと」(文学的な文章)

◎ 単元名 物語を読み、考えたことを伝え合おう(『ごんぎつね』)

◎ 重点指導事項

登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。[思考力、判断力、表現力等]C(1)エ

□ 単元構想例

段階	時間	学習活動	指導のポイント
一次 (課題意識 の醸成)	1	・初発の感想(心に残った場面、みんなで考えたこと)を書く。	ポイント① 課題解決的な単元を構想しましょう!
	2	・みんなの問いから、学習計画を立てる。	
二次(課題 解決のため の読み)	3~6	・登場人物に焦点を当て、気持ちの変化を考える。	ポイント② 考えの根拠を叙述に求めましょう!
	7・8	・クライマックス場面について、みんなで考える。	
三次 (表現)	9・10	・読んで考えたことを個人でまとめ、グループで伝え合う。	ポイント③ どうして解決できたか明確にしましょう!
	11	・単元で学んだことを振り返る。	

□ 授業場面例(第6時)

学習課題「引き合わないと言っていたごんは、なぜ、次の日もくりを持っていったのだろうか。」

※ 個人で「ごん」の気持ちや行動の理由を見つけた後、互いの考えを伝え合う場面

ごんは、兵十に気付いてほしかったから、次の日も持っていたのだと思う。

でも、ごんは、自分から正体を明かそうとはしていないよ。だって、「うら口から、こっそり中へ入りました。」と書いてあるから。

なるほど。ただ、3の場面では、「入り口に、くりを置いて帰りました。」と書いてあったから、気付いてほしい気持ちがだんだん強くなってきたんじゃないかな。



※ 授業終盤で、子どもが学びを自覚できるように教師が働きかける場面

T:どんな言葉に着目したから、分かったのですか?

C:様子を表す言葉です。

T:「様子を表す言葉」が行動を詳しくしているから、「ごん」の気持ちが分かったのですね。

C:そうか!「こっそり」に着目してどういう気持ちか考えたから、今日、ぼくは分かったのか!

B 目的にに応じて、必要な情報を見付けて読む。

教材名：未来につなぐ工芸品（光村図書4年）

大前提：…ただ活動するだけの学習にならないよう…[思考力、判断力、表現力等]の各領域において、**学習過程を一層明確にし、各指導事項を位置付けた。**
(『小学校学習指導要領解説国語編』P.9)

つまり

必要な情報を見付けて読む(要約する)には、**文章全体の構成を捉える**ことも、適切に指導する必要がある!

そのために

ポイント① **文章全体の構成を捉える指導**を計画的に行いましょう!



話題提示や問題提起、事例、分析、主張など、各段落(部分)の役割に着目することで、文章の構成(全体)を捉えることができます。また、段落相互の関係を捉えるには、「さらに」、「例えば」、「このように」のようなつなぎ言葉に目をつけることが大切です。
「未来につなぐ工芸品」では、各段落の役割に着目しながら、筆者の工芸品に対する思い(主張)が「始め」と「終わり」に示された双括型の文章であること、主張と2つの理由が関連していること(段落相互の関係)をおさえます。
【構造と内容の把握】

【例】全文シートを使用して文章の構成を捉える。

未来につなぐ工芸品

一「工芸品」と聞いて、どのようなものを思い浮かべるでしょうか。みなさんが毎日のくらしで使っている皿や箸、つくえや椅子、かばんや紙などの中で、職人の手仕事で一つ一つ作られているものが、「工芸品」とよばれています。日本各地で、その土地の気候やしげんをいかした伝統的な工芸品が作られ、全国のお店で売られています。

二、職人は、使う人のことを大切に思い、ていねいに工芸品を作っています。わたしは、そんな職人と、職人たちが生み出す工芸品が大好きで、工芸品のよさを伝える仕事をしています。日本の生活の変化などから、昔にくらべて工芸品を使う人がへり、職人の数も少なくなってきていますが、わたしは、工芸品が未来の日本にのこしていきたいと思います。それは二つの理由があります。

三「目的理由は、工芸品が過去、けいぞうと続いてきた日本の文化のけいぞうで、未来につなぐられることです。例えば、奈良県に、「奈良壺」という工芸品があります。奈良壺は、千年以上前から、文字や絵をかいたための道具として使われてきました。木や紙にかかれた壺は、今も消えることのないでいて、当時の文化をわたしたちに伝えてくれています。そして、げんざいも、書家や画家、墨文字や絵をかいたことを楽しむ人たちの間で、色合いが美しく、かきここのよい奈良壺を使っている人が多くいます。そうしてかかれたものは、未来に、今を伝えてくれることで、茶道で使う茶わん、落書きあかせんす、祭りのときのうちもんや相だいなども同じです。職人が作るさまざまな工芸品があるからこそ、日本の文化やけいぞうを未来にのこせるのです。

四「一つの理由は、かんきょうを未来につなぐられることです。工芸品には、材料や作り方の面で、かんきょうへの負担が少なくというところがあります。また、長く使えるように作られているので、ごみをへらすことにもなります。岩手県の「南部鉄器」を例に見てみましょう。ある工房では、火山岩のすなねん土をまぜて型を作り、そこに木炭の火でとかれた鉄を流しこんで、写真①、鉄ひんやふうりんなどで作ります。さびをふせぐために木炭で熱し(写真②)、仕上げにうるしをぬりて色をつけるのですが、そのときに使うのは(写真③)も、「クゴ」という植物でできています。南部鉄器は、鉄、木炭、すな、ねん土、うるし、クゴなど、自然にある素材で、電気や化学薬品を使わずとも作ることができるのです。さびにくく、じょうぶなので、五十年、百年を使い続けることができます。材料や作り方、そして長く使えるという点で、かんきょうにやさしいといえます。

五「もう一つの理由は、わたしは、工芸品を未来の日本にのこしたいと思っています。そのために、多くの人にそれぞれの工芸品のよさを知ってもらおうとしています。工芸品には、道具として便利さ、使ごころ、色や形、もようの美しさなど、さまざまなよさがあります。どこにみても、くを感じるかば、人それぞれです。

六 あるとき、長野県で「木曾漆器」という工芸品を作っている職人に、こんなことを言われました。「工芸品を作っている人だけが職人なのではなく、そのよさをみんなに伝えてくれる人も、工芸品を次の時代にのこす、一人の職人さんのですよ。」と。それからは、自分もその工芸品に関わる「一人の職人」なのだという気持ちで、自分が本当によいと感じたことを、職人がこめたいとも伝えていくようにしています。

七 わたしは、工芸品ののこすには、日本の文化をけいぞうしつ、そして、かんきょうな未来につなぐっていくことになると思います。だから、みなさんもぜひ、工芸品を手にとってみてほしいと思います。そして、工芸品にみちみちを感じたら、「二人の職人」になって、先生や友達、家族に、自分がどう感じたのかを伝えてみてください。

文章全体の構成を捉える力を身に付けるためには、低学年からの学びの系統性を意識しながら、螺旋的・反復的に指導していくことが大切です。
段落相互の関係を捉えることにより、目的に応じて要約する学習活動への理解や定着が確かなものとなります。
そしてこの力は、高学年で、要旨を把握する力につながっていきます。

メリット① 必要な情報を見付けて読むための土台となる

ポイント② 系統性を確認して教材研究しましょう!

低学年の段階から、書き手が述べている事柄を正確に捉えるために、重要な語や文を見付けることが大切です。そして、その力を生かした教材研究が必要です。

- ・ 時間や順序の事柄を表す語
- ・ くり返し使われている語
- ・ 文末表現（断定表現）
- ・ 題名
- ・ つなぎ言葉

等に着目し、文章全体から中心となる語や文を見付けていきます。「未来につなぐ工芸品」であれば、「未来」、「工芸品」、「職人」「げいじゅつ」、「かんきょう」といった言葉に着目しながら教材研究を進めていきます。

【精査・解釈】



本文全体から着目した文（一部抜粋）

②段落

…わたしは、工芸品を未来の日本にのこしていきたいと考えています。それには、二つの理由があります。

③段落

一つ目の理由は、工芸品が、過去、げんざいと続いてきた日本の文化やげいじゅつを、未来につないでくれることです。

⑦段落

わたしは、工芸品をのこすことは、日本の文化やげいじゅつ、そして、かんきょうを未来につないでいくことになると思います。

大事な語や文は、始め・中・終わりのまとめりごとに抜き出し、文章構成表等を用いて、整理しておきます。

見付けた文には、題名と直結する語も多く含まれているため、題名との関係に気付かせることにもつながります。

このことは、高学年で文章から必要な情報を見付けたり、論の進め方を捉えたりすることに発展していきます。

メリット② 既習事項を活用して中心となる語や文を判断できる

ポイント③ 目標とする児童の記述を明確にしましょう!

目的等に応じて、分量や段落数、常体・敬体などの条件を示しながら要約します。授業者が事前に要約を作成して試みるのが大切です。目標とする記述が明確になり、指導に役立てることができます。



300字以内で要約するなら、「中」の部分は、前回まとめた大事な言葉や文のうち、どれが必要ですか？

「かんきょうを未来につないでくれることです。」という文は、必要だと思います。



どうしてその文が大事なのですか？

筆者が工芸品を残したいと考えている理由の一つだからです。



前時にまとめたまとめりごとの文や言葉から子どもたちは発言します。その中から、筆者の主張やそれを支える事例等を示しているものが要約に必要であることを指導します。

要約を作成する際は、ロイロノート等アプリを活用することで、文字数を調整するとともに、書き直しながら書くことができます。

メリット③ 適切な指導と評価→確実な資質・能力の育成につながる